



TITLE:

前立腺乳頭状腺癌の1例

AUTHOR(S):

黒川, 孝志; 加藤, 範夫; 森川, 史郎; 金井, 茂

CITATION:

黒川, 孝志 ...[et al]. 前立腺乳頭状腺癌の1例. 泌尿器科紀要 2003, 49(7): 415-417

ISSUE DATE:

2003-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115002>

RIGHT:

前立腺乳頭状腺癌の1例

公立学校共済組合東海中央病院泌尿器科 (部長: 黒川孝志)

黒川 孝志*

加藤泌尿器科

加藤 範夫

安藤医院

森川 史郎

岐阜社会保険病院泌尿器科 (部長: 金井 茂)

金井 茂

A CASE OF PAPILLARY ADENOCARCINOMA OF THE PROSTATE

Takashi KUOKAWA

From the Department of Urology, Tokai Central Hospital

Norio KATO

From the Kato Urological Clinic

Shiro MORIKAWA

From the Ando Clinic

Shigeru KANAI

From the Department of Urology, Gifu Social Insurance Hospital

A case of papillary adenocarcinoma of the prostate is reported. A 73-year-old man was referred to our hospital with macrohematuria. The serum level of the PSA ranged within normal limits. Urethroscopy revealed a papillary tumor near the verumontanum. The tumor was resected transurethrally. Histopathological examination revealed adenocarcinoma with papillary growth and the tumor displayed immunoreactivity for PSA stain. Radical prostatectomy was performed. The follow-up at 11 months revealed neither local recurrence nor distant metastases.

(Acta Urol. Jpn. 49: 415-417, 2003)

Key words: Prostatic carcinoma, Papillary adenocarcinoma

緒言

前立腺乳頭状腺癌は、従来は類内膜癌ともよばれおにも精阜付近の前立腺部尿道に乳頭状に発育する比較的稀な疾患である。今回われわれは肉眼的血尿を主訴とした前立腺乳頭状腺癌の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症例

患者: 73歳, 男性

主訴: 肉眼的血尿 排尿時痛

既往歴: 前立腺炎 (68歳)

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 2001年9月初旬, 排尿時痛を伴う肉眼的血

尿を自覚したため9月10日当科初診した。排泄性腎盂造影, 超音波検査および膀胱鏡, 尿道鏡検査にても特に異常を認めえず, 尿細胞診陰性, 一般尿検査で潜血のみ陽性を示した。前立腺抽出液の鏡検にて白血球を多数 (高倍率下) 認め前立腺炎に対して抗生剤の投与を開始し経過観察となった。2001年12月下旬, 再び肉眼的血尿を自覚したため再度, 尿道鏡を施行したところ前立腺部尿道精阜付近に前回あきらかではなかった乳頭状隆起を確認した。経尿道的切除による病理検索を目的として2002年1月18日入院した。

入院時現症: 身長 158 cm, 体重 41 kg. 表在リンパ節は触知しなかった。直腸診にて表面平滑, 弾性硬クルミ大の前立腺を触知した。

入院時検査所見: 血液一般, 血液生化学に異常は認められず, PSA も 1.3 (4.0 ng/ml) と, 正常範囲内であった。

* 現: 岐阜社会保険病院泌尿器科

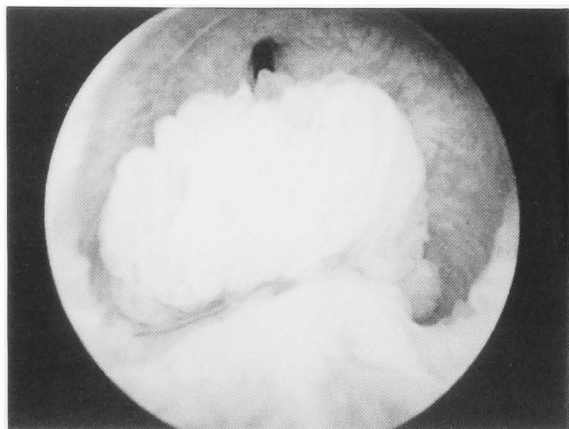


Fig. 1. The urethroscopic finding of the papillary prostatic carcinoma.

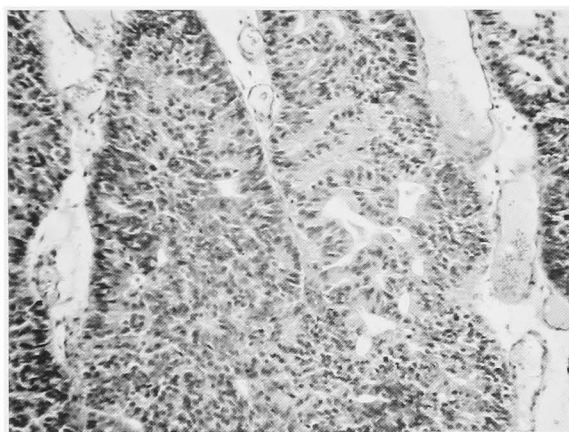


Fig. 2. Histopathological finding of TUR specimen was well-differentiated adenocarcinoma which was positive for PSA staining (×200).

2002年1月21日硬膜外麻酔下に経尿道的に乳頭状病変を切除した。

内視鏡手術所見：精阜の右側にやや白色の乳頭状腫瘤を認め (Fig. 1) これを切除した。

病理検査所見：子宮内膜癌に類似した乳頭状に増殖する高分化型腺癌が認められ (Fig. 2), 免疫組織化学的染色にて PSA は陽性を示した。

以上より、前立腺乳頭状腺癌と診断した。CT, MRI および骨シンチにて局所浸潤、遠隔転移は認められず、前立腺内に腺癌の残存が否定出来ないため2002年3月14日根治的前立腺全摘術を施行した。病理結果は、高分化型腺癌、pT2, N0, M0であった。術後、11カ月を経た現在、再発を認めていない。

考 察

前立腺乳頭状腺癌は、病理組織学的に女性の子宮内膜癌の組織像に類似していることから従来は類内膜癌と呼ばれ、その発生母体も男子子宮由来と考えられていた腫瘍である。世界的には1967年の Melicow らの

報告¹⁾が最初とされており、その後電子顕微鏡的研究の結果²⁾や PSA による免疫組織化学染色の検討^{3,4)}などから、最近では前立腺小管由来の乳頭状腺癌として捉えられるようになっており、名称も endometrial carcinoma⁵⁾ よりも ductal adenocarcinoma with endometrial feature と呼ばれるようになってきている⁶⁾ 本邦では1976年的一条らの報告⁷⁾以来現在までに調べた限りでは55例の報告があり、本症例は56例目に相当すると考えられ比較的稀な腫瘍であるといえる。前立腺乳頭状腺癌の臨床症状は、本症例と同じ様に肉眼的血尿や排尿障害が多く、直腸診にても硬結などの異常所見に乏しいことが報告されており、腫瘍が発生母地とされる前立腺導管内より尿道へと増殖し発育することが多いためと考えられている⁸⁾ また腫瘍が尿道内までは浸潤していない場合には通常、前立腺肥大症として診断され TUR-P や前立腺被膜下摘出術に際して発見される場合も報告されている^{8,9)} 典型的な内視鏡所見としては、膀胱頸部から前立腺部尿道特に6時～8時方向、精阜付近に多く認められ、脆弱なポリープ様で虫様の白色腫瘍 (friable polypoid worm-like white masses) であると表現されている¹⁰⁾ 血液中の PSA の値は、浜本らの報告¹¹⁾によれば高値を示しているのは34%であり、緒家の報告を見ても血中 PSA は正常のことが多い。一方で免疫組織化学染色での PSA 陽性率は高く本疾患の診断の一助となりえたとされている。前立腺乳頭状腺癌の治療法は、診断後通常の腺房由来の前立腺癌と同様にして行われており、その予後は比較的良好と考えられる。ただし、本邦報告例の中には前立腺乳頭状腺癌として比較的速やかに診断出来た症例は決して多くはなく¹²⁾、前立腺肥大症の臨床診断にて施行した TUR-P や被膜下摘出術の病理組織結果や膀胱や直腸など隣接臓器への直接浸潤を契機に診断的に確定した例も報告されている。その理由として、1) 血液中の PSA が正常の場合が多いこと、2) 直腸診にて硬結を触知しにくいことなどから通常は腺房由来の前立腺癌の診断で実施されている前立腺針生検や経直腸エコーが施行されにくい点が考慮される。本邦報告例の中には、術前に乳頭状腺癌と診断されたのは56例中1例のみ¹¹⁾であり、やはり本症例の様に原因の明らかなではない肉眼的血尿に関しては尿道鏡検査の重要性を含め本疾患の存在する可能性を十分に考慮すべきであると考えられた。また、根治的治療の観点から、尿道内へ突出した腫瘍のみを切除するだけではなく、前立腺内部における乳頭状腺癌の残存の有無および通常の前立腺癌の混在の有無についての病理的診断の確定といった意義を考慮して前立腺全摘術を可能であれば施行するほうが良いと考えられた。

結 語

精阜付近の尿道へ乳頭状に増殖した前立腺乳頭状腺癌の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告した。

おわりに本症例の病理組織学的検索および切除組織のPSA染色などに関して多大なく御教示, 御協力を頂きました公立学校共済組合東海中央病院病理検査部日高祐二技師, 坂本寛文技師および森 良雄先生(現国立名古屋病院病理部)にこころより御礼申し上げます。

文 献

- 1) Melicow MM and Patcher MR: Endometrial carcinoma of prostatic utricle (uterus masculinus). *Cancer* **20**: 1715-1722, 1967
- 2) Bostwick DG, Kindrachuk RW and Rous RV: Prostatic adenocarcinoma with endometrioid features. clinical, pathologic and ultrastructural finding. *Am J Surg Pathol* **9**: 595-609, 1985
- 3) Epstein JI and Woodruff JM: Adenocarcinoma of the prostate with endometrioid features. a light microscopic and immunohistochemical study of ten cases. *Cancer* **57**: 111-119, 1986
- 4) 佐藤未隆, 桜井 勇, 宮川智幸, ほか: 前立腺の“Endometrioid” Carcinoma. *臨 病 理* **35**: 693-697, 1987
- 5) Melicow MM and Tannenbaum M: Endometrial carcinoma of uterus masculinus (prostatic utricle). report of 6 cases. *J Urol* **106**: 892-902, 1978
- 6) Zaloudek C, Willimams JW and Kemmpson RL: “Endometrial” adenocarcinoma of the prostate. a distinctive tumor of probable prostatic duct origin. *Cancer* **37**: 2255-2262, 1976
- 7) 一条貞敏, 伊達智徳, 今村 巖: 前立腺乳頭腺癌の1例. *日泌尿会誌* **79**: 457-461, 1976
- 8) 新井 学, 川上 理, 鎌田成芳, ほか: 前立腺類内膜癌の1例. *泌尿紀要* **43**: 755-757, 1997
- 9) 福井淳一, 清田敦彦, 西川慶一郎, ほか: 前立腺類内膜癌の1例. *泌尿紀要* **44**: 335-337, 1998
- 10) Bostwick DG and Eble JN: Variants of prostatic carcinoma. In: *Pathology of the prostate*. Edited by Bostwick DG, 1st ed, pp 95-98, Churchill Livingstone, New York, 1989
- 11) 浜本幸浩, 後藤高広, 河村 毅, ほか: 前立腺被膜下摘除術後発症した前立腺乳頭状腺癌の1例. *泌尿器外科* **14**: 679-682, 2001
- 12) 松岡 陽, 石坂和博, 町田竜也, ほか: 診断困難であった前立腺乳頭状腺癌の1例. *泌尿紀要* **47**: 751-754, 2001

(Received on December 17, 2002)

(Accepted on April 15, 2003)